



障害をもつ幼児の保育(32)

—この子と出会ったとき—

津守 真 (M)

津守 房江 (F)

この子と生きるついで大切にしてきたこと(4)

M 愛育学園では、小学部の六年を卒業した後も、親子で度々学校を訪れてくれるので長い年月の人間の成長を考えさせてくれます。先日同窓会が開かれましたが、その意味でとても楽しかったのでそのときの話をしましょうか。

みんな、この目をととても楽しみにしていて、自分の原点を確認するように部屋の中を見て回っていました。ね。いつも、お母さんと一緒だった人が一人で来て、みんなの輪の中で青年の風貌で談笑している姿が見られたりしましたよ。

F A君は相変わらず人の集まるには出て来ないで、二階の奥の部屋で以前の担任の先生に、お得意の管楽器の絵を小さなラッパからチューバまでつぎつぎに描いてもらって、絵を通して対話していました。以前のようにひどく照れてしまわずに、描いてもらった紙を折って飛行機にして飛ばしていました。『ぼくはこうやって大きくなり、ここを飛び立っていったのだよ』と語っているように感じました。

『その日暮らし』について

M どの人もいま行っているところで安定しているけれど、ここに来ると昔の遊びをちよつとやってみるようです。自分を確認するのでしょうか。A君のお母さんの話によると中学に行つて、担任の先生が高圧的にA君を従わせようとしたときに、少し苦勞したけれど、本人がしつかりそれを表現するので、お母さんが思い切つて先生に話して分かつてくれるところは落ち着いているそうです。現在、A君は作業所で働いて

いるのですが、一日がすぐ過ぎてしまうので、お母さんはまとまったことは何もできないと言われましました。

F 私もA君のお母さんや二、三の人と『むかし、その日暮らしでいいって言われた』という話になりました。『その日暮らし』っていうのは、一般的には先のこととを考えないで生きている人のことで、否定的な意味にとられますね。でもここでは「この日を一生懸命に生きる」という励ましだと思つたのですが、先のことばかり心配しないでこの日のことを一生懸命やりましようという意味でしょうか。

M 聖書の有名な言葉に「その日の苦勞は、その日だけで十分である」とあります。いつも私たちのことを大切に見守つていて下さる方がいるから思い煩わないでという意味で、以前お母さんたちに話したのです。『その日暮らし』という日常の言葉で言つたのですが、お母さんたちは覚えていてくれたのですね。

『その日暮らし』を可能にするには……

子どものありのままを受け入れること

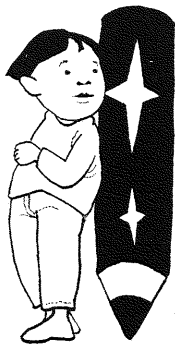
M N子さんのお母さんは一人で参加されたのですが、ゆつくり話していかれました。N子さんは弱視で難聴で、心臓の手術もされていたと思いますが、以前からの続きで生活はなかなか大変のようでした。食事が難しいこと、一晩に二、三回起き出してしまふことなど話を聞いてみると、ついもつと楽にならないかと考えて助言したくなるのです。福祉サービスのシヨートステイに出しても世話があまり大変だから、何となくすぐ断られるそうです。将来を考えてせめてシヨートステイにでも行かれるようにと願っているそうです。でもお兄さんやお姉さんもそんな中から自立してちゃんとやっていますよ。

F それであなたは何て話されたのですか。実は、そのあと私がN子さんのお母さんに会ったらあなたに現状を聞いてもらって、とても気が楽になったと言われ

たんです。

M 私は話を聞いてこの人は大変な中でもちゃんとやっていると思ったので、「いまのままでもいいじゃないですか、N子さんは十分に満足して生きていますよ。あなたは自分のことを考えておいしいものを食べたり、時間を見つけてよく眠り、時には短いものを読んだり、考えたりして自分を大切にしてください」って言ったのです。でも、あの人はもうそうやっ

F 子どもの現実を受け入れることはどの親にとっても難しいことですね。私自身のことを考えても親つて



自分の子には欲張りだから……。子どものありのままを認めるとずつと自分にも優しくなれますよね。私はN子さんのお母さんに出会って、以前と変わらない穏やかな姿に言葉には出来ないような深い思いをもったのです。

N 子さんの記録を読んで

F 家に帰ってそれが何だったのか、そのころのことを書いたものを見てみたのです。私の著書の『育てる心の旅』（日本基督教団出版局 一九九〇）の六三頁にありました。

M 私の記録も見てみましょうか。卒業して十五年たちますから、幼児期のころから見ると十八年以上たつのです。

（膨大な記録の中から一九八八年五月―九月ころのものを出す。）大体同じころですね。

F 私がはじめてこの子と付き合ったときのことを書いたのですが、蒸し暑い日なのにビニールのレイン

コートを着ていてファスナーを閉め、暑いから下げようとする怒るのです。せめて袖口をめくってあげようとしても袖口を引っぱって手が出来ないようにします。

M 九月の記録にはボタンをかけた外したりを三分もやって、私の指がいたくなると書いてあります。

同じ年の六月にはチョッキのファスナーを上げたりしています。N子さんがこのころ鏡をよく見ました。この人のファスナーへの関心は胸にある大手術のあとと関係があるんじゃないかと思っていました。それでN子さんが度々鏡を見ることを記録したのだと思います。そうすれば自分の手術のあとを見ているでしょう、まるでファスナーのような傷跡を意識もするでしょう。

F ええ、私もあの傷には驚きました。本当にファスナーみたいです。きつと生命を脅かされるような出来事だったのでしよう。ご両親にとってはこの子が生きていることが心底ありがたいことだったのでしよう。だ

から人から見ると大変な生活でもやっていかれるし、大事にしているのでしょうか。十八年前には私はそのことには触れられませんでした。

M 八八年の九月の記録には、土曜日に「父と母が連れてくる」とあります。お父さんはいまま夜中に起こされ、朝の散歩にいっしょに行つてから会社に行くという事です。今日を大事に生きていることが分かりますね。

もう一つ大事なことは人と比べないこと

M 同窓会でO君の妹さんとゆつくり話していると、ろへお母さんが来て、大変楽しかったです。以前妹さんがO君と木に登っていたり、お兄ちゃんと仲がいいんですよ。

F O君は小さいころは学校へ来ると裸になつて走り回つて遊んでいましたね。

M 小さかったころ私がO君の裸を心配するよりも「いまは何もかまなぐり捨てて本気で遊ぶときだと

思う」とお母さんが言ったことがあります。

O君のお母さんは私が大学を辞めて養護学校の保育に専念するようになったことを、とても喜んでくれた一人です。「先生が最初に言われたことをいままはつきりと覚えていきます」と言われました。その第一は「いまを大事にすること」第二は「他人と比べないこと」と話されました。私はこのことをそんなにはつきり覚えていてくれることに感激して話し合いました。

F お母さんたちは子どもたちの卒業後、中学や、高等部や、作業所に行つて私たちとは違ういろんな育てられ方をした子どもを見ています。そのような経験の中から子どもの心を育てるうえで大切なのは子どものときによく遊ぶことと、子どもが納得して生活出来ることだ、と言われたことが特に心に残りました。

M 同窓会で原点を確認したのは子どもたちだけでなく、大人たちも互いに子育てについて学んだ日でしたね。
(保育研究者)